



平成19年度

施政方針

第19回養父市議会定例会が3月1日から27日まで開かれ、梅谷馨市長は平成19年度各会計予算を提案するにあたって、新年度の市政方針を述べました。

平成19年度は、養父市の安定した将来のために引き続き行政改革を推進するとともに、財政状況が厳しい中でも、今、やらなければならない事務・事業については積極的に実施することとし、予算を編成しています。

今月号では、平成19年度の施政方針（一部抜粋）と予算の概要をお知らせします。

行財政運営の基本姿勢

昨年度は、夕張市の経営破たんが大きな問題として取り上げられました。

養父市においても、市民1人当たりの地方債残高が全国で上位にあり、実質公債費比率が22%と高率であるなどの報道がなされたため、夕張市のようにならないかと多くの市民の皆様にご心配をおかけしました。養父市の債務残高は多いものの、学校や道路、上下水道、病院整備など住民生活に不可欠な、いわば借金をしてでも取り組まなければならなかったものがほとんどで、次世代も利用し、世代間にならぬ返済をしていくという起債制度に基づいた運用です。

養父市は、平成18年度を行財政改革のスタートの年と位置づけ、4力年間で体質の強化を徹底して行うことを目指しています。聖域のない行政改革を断行しつつ、限られた財源の中で総合計画で示したさまざまな施策を精査し、実行していきます。

総合計画の5つの柱について申し上げます。一つには「安全で安心して生活できるまちづくり」です。地球規模で温暖化現象が進んでいるといわれ、従来気象状況では予見できないものとなっております。このような中、治山・治水対策を計画的に行いながら、市民と一体になった防災体制を整えていきます。

また、市内中心部を縦断する「養父断層帯」が公表されまし

た。研究では地震が発生する確率は高くないとされていますが、

発生すると大きな被害が想定されるため、どこでも震災が起こりうるこの認識のもとに備えるの必要性を強く認識しています。

近年、医師の臨床研修制度の変更により、地方における医師不足が深刻なものとなっております。公立八鹿病院においても、小児科医の引き上げによる産婦人科の閉鎖が発表されたため心配していましたが、幸い継続の目途が立ち安心していらっしゃる。

住民福祉においては、医療・保健・介護が十分な連携を保つことや、障害者や高齢者を地域で支え合う実践行動を市民と行政の協働による取り組みとして

進めていきます。

二つには「活力を生み出すまちづくり」です。少子・高齢化による人口減少社会の到来は全国的なものです。平成17年国勢調査の結果では、養父市の人口は6・0%の減少となり、市の活力は減退しています。雇用の場の創出が急務であり、若者の定着する基盤づくりに取り組んでいきます。広域通信単位制

「ウィザス ナビ高等学校」との誘致協定を締結したことは大きな喜びです。この実現に向けて全力を傾注します。

また、地域特産物を創出する農林業や、豊かな自然と歴史や文化を活用した観光、異業種交流などで、新産業を創出できる商工業活動を支援していきます。

三つには「快適な生活ができるまちづくり」です。道路整備

においては、昨夏、待望の北近畿豊岡自動車道の春日―和田山間が開通し、和田山―八鹿間も着工しました。5力年間で開通を予定するもので、全面的な支援をしていきます。また、市道の整備も、財政状況を考慮して優先度等を見極めながら取り組んでいきます。

環境に対する取り組みでも、資源循環型社会を実現させなければならぬ役割のもとに、市民のご協力をいただきながら積極的に取り組んでいきます。

四つには「生きがい・楽しみ・誇りのもてるまちづくり」です。人を人として尊重しながら、市民それぞれの立場で地域の一員